

令和7年度 食の安全安心と食育審議会「食育推進部会」議事録

日時：令和7年10月10日(金)10:00～12:00

場所：兵庫県中央労働センター 2階 視聴覚室

1 あいさつ（中井次長）

皆さんこんにちは。保健医療部の中井と申します。

本日はお忙しい中部会にお越しいただきありがとうございます。

また皆様には、日頃から県政の推進にご理解ご協力を賜りこの場をお借りして、お礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、令和6年4月に、農林水産省から、国の食育推進基本計画のフォローアップの中間取りまとめが公表されまして、その流れを受けまして今年4月に新しく食料農業農村基本計画というのが策定されました。持続可能な食糧供給には、消費者への啓発活動というのが重要なものですから、今の食育を推進するために官民食育プラットフォームを構築されているところでございます。

本県におきましても、第4次食育推進計画の4年目といたしまして、関係機関と連携した施策を推進しておりまして、昨年は「ひょうご健康的な食環境づくりプロジェクト」、愛称 BE WELL という産官学連携組織を立ち上げました。BE WELL は誰もが自然に健康的な食品に手が伸び、健康寿命が延伸することを目指しておりまして、食品製造、流通、配食の各事業者が行動目標に沿って活動をしていただき、各社の強みを生かして連携して、啓発活動を行っていただいております。実は先週10月4日に神戸ハーバーランドのスペースシアターで、サニーフェスタ 2025 という神戸市と連携してやっていただいている分で BE WELL のブースを出展させていただいて、道行く方々、来ていただく方々に、食と健康のクイズラリーや健康的な食品の展示、試食などもしていただいたということで、多くの方に啓発できたのかなというふうに思っております。

来年度は、第4次計画の評価、改定の年ということで、皆様におかれましては専門的な立場から、また普段の活動から課題に感じておられること、それから、第5次計画に是非とも取り入れたい、取り入れるべき視点みたいなものもご意見等いただければというふうに思っております。

また後半には、例年のことになりますけれども、食育絵手紙コンクールの審査も行っていていただく予定となっております。限られた時間ではございますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

（永井部会長）

本日部会長を務めさせていただきます、永井でございます。よろしくお願いいたします。

それでは次第に従いまして、進めさせていただきます。最初の議事ですが、健康に関心が薄い層に向けた食育について、事務局からよろしくお願いいたします。

(事務局)

資料 1 から 3 により説明

(永井部会長)

ただいま事務局から、資料の 1 から 3 にかけて説明がございました通り、食育推進計画第 4 次については、若い世代を中心とした健全な食生活の実践、それから、関心の薄い層を含めた食環境整備を中心、ということで説明がございました。委員の皆さんには、この話題についてご不明点、あるいは今後についてもご助言などございましたら、お願いしたいと思っております。いかがでしょうか。ぜひ、積極的なご発言をお願いいたします。

(土井委員)

ご説明ありがとうございます。質問ですけれども、資料 2 に関しまして大学生向け朝食摂取率向上プロジェクトについてです。素朴な質問で、令和 6 年度、管理栄養士養成校学生を中心とした企画会議を開催された際、学生さんをどのようにして集められたのか。あとは教育機関について、甲南女子大学、神戸女子大学、武庫川女子大学の 3 校のみでこのまま続けていくのか、もっと連携大学を広げていくのか。企画を作っている学生の集め方をお伺いしたいです。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。まず 1 つ目の学生の集め方については、3 大学の担当の教員の方にお話させていただいて、その研究室の方を中心に、まずは学生に声をかけていただきました。そのあとに、学生から研究室以外の企画自体に興味のある方どなたでも参加いただけることを声掛けさせていただき、学生から広まって参加いただいているという状況です。

2 つ目の質問で、連携の大学の広げ方について、事業自体兵庫県栄養士会さんの方に委託しているという流れで 3 大学の教員の先生方をお願いする運びとなったという背景がありますが、今担当から申し上げた通り実際には学生の方が主体的に動いてくれているので、呼びかけるとき、手を挙げてくださった学生さんには、学部が違ってお友達も一緒に参加してくれていいよというふうにお伝えしています。ただ、内容的にやはり、こちらの健康づくりという趣旨がきちんと適切に伝わっているということは外せないと思っておりますので、基本的には栄養学部の学生さん主体にお友達も参加を呼びかけながら、今後進めていきたいなというふうに考えています。

(永井部会長)

ありがとうございました。

(橋本委員)

大学生向けの朝食摂取率向上プロジェクトは、それ以前からも、兵庫県の方から受託して授業は続けてきておりました。ただどもそれまで、単年度で終わってしまっていて、効果が出てきていないというところから、やはり継続性っていうのが必要ではないかと。3年計画でやってみてはどうかっていうところで、今回3大学に声をかけたというところなんです。3年継続ということですので、やはり大学の先生方の理解というのは非常に必要で、栄養士会と関係の深い大学をまず取り上げて、そこから次に広げていこうと考えています。来年は広報中心にということですがけれども、その後どう広げていくかは非常に課題だと思っています。学生は、卒業していきますので、それをどう引き継いでいくのか。さらに、管理栄養士課程以外の一般の大学への広げ方は今後検討が必要かなというふうに思っております。以上です。

(永井部会長)

説明ありがとうございました。もう本当に学生さんは自ら動く力をお持ちですので、これから広がっていくことを期待したいと思いました。ありがとうございました。

(芦田委員)

おそらく橋本様の方から、どこかの研究室にお声かけいただいて学生主体に動いてるということで、もう少しそこに県がこういう取り組みやってるよっていうのを出していただくほうがいいですね。現実問題として、私ここの管理栄養士コースの学部の学部長をしていますけど、このこと一切知りませんでした。聞こえてきてないんですよ。ですから、学部の中でも周知されてないところはあるので、もう少しその伝え方を含めて、考えていかなければなかなかここから広がりが出ないんじゃないかなというふうに思います。

(永井部会長)

ありがとうございます。伝え方というところでご意見いただきました。悩むところだと思いますので、委員の皆様からも（ご周知をお願いしたい）ですね、まずは大学へ周知していただくということを事務局にもまたお願いしたいと思います。

他にももう1点、説明をお聞きしながら先ほど言うのを止めていたことがあるんですけども。こういうBE WELLの冊子はよく見るんですが、行政が作られたものにしては、という言い方は失礼なのですが、行政が作られているのかなって思えるぐらいすごく素敵な資料なので、こういったものを今後どういうふうに、タブロイド紙のように写真を多くして、県民に、関心の薄い方に広めていけば良いのかなというところですね。

(渡部委員)

私も同じような意見で情報発信というのは作らないといけないもので、もったいないなっていうふうに思う。なかなか広がらない。私らもずっと情報発信、魚のことをやるんですけど、地道にやる部分と、今時なので広告塔みたいな方で、兵庫にゆかりがある方から拡散してもらおうっていうのは、結構効果的なのかなと個人的には思います。そういう方を見つけながら広げると広がったりする。それは大事かなと思うので、そういうふうなことがあればなっていうのが 1 つと、確認なんですけど、大学生 19 歳から 29 歳までの方が、なぜ朝食を食べてない？

(事務局)

19 歳から 29 歳に限ったアンケートが取れていないので全体的な回答になってしまいうんですけれども、こちらでアンケートを取ったときには、朝食を食べない理由として一番多かったのが、食べる時間がない、2 つめに多かったのが、朝食を食べるより寝ていたい、3 つめに多かったのが食欲がわからないという理由が挙げられていました。

(渡部委員)

根本的にその世代を、何か変えていこうとした時、生活環境と連動していかないと食だけに焦点をあてると難しい。もっと根本的なところにもあるような気がするので、極端な話、大学で朝食が摂れる仕組みづくりのほうが、もしかしたら食べるのかもしれない。

(永井部会長)

貴重なご意見ありがとうございました。広げていく、発信していくということ、それから、根本の食べられない原因にもアプローチしていくということで、貴重なご意見をいただけたと思います。

それでは次の議事に移ります。食育推進計画（第 4 次）が R8 年度で終期を迎えます。それにあたり、食育推進計画（第 5 次）に向けての検討について、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局)

資料 4、5 により説明

(永井部会長)

ただいま事務局から説明がありました、食育推進計画（第 5 次）の現況についてなんですけれども、こちらは、国の食育推進計画におけるポイントを踏まえつつ、第一次計画からこれまで別々の計画であった「食の安全安心推進計画」と統合に向けた動きがあるという、そういった説明が事務局よりございました。こうした動きも踏まえつつ、委員の皆様からは普段のご専門の立場、あるいはご活動の中から感じておられ

る食育の課題、そして次期計画に必要な取組みの視点、また第5次計画のスローガンの案に取り入れるとよい視点、フレーズについて、ご意見をお願いいたします。

(土井委員)

質問なんですけど、資料4について、兵庫県として取り入れてみたい、重要ではないかと思うところ、キーワードやコンセプト等あればお伺いしてみたい。

(事務局)

やはり我々も20年経った現在、大きく社会の情勢が変化したというところも踏まえまして、関係機関がそれぞれの持ち分の中で、おもに個の住民に対して行う食育というのは、もう一定すごくよく取り組まれてこられた、本当に敬意を表したいと思っているんですけども、ただ、やはり先ほどからご意見頂戴している通り、個々の実施主体ではなかなか解決できないような複雑な課題であったり、例えば生活困窮世帯へのアプローチとか、まだ手が十分に出せていない分野もございます。そういった課題に対して、横の連携をとりながらどのようにアプローチしていくのかという、課題が残されている。そこについて重点課題となるというふうに考えております。

(永井部会長)

いずみ会あるいは学校の校長会の先生はいかがでしょう。よろしければいずみ会様、活動の中でなにかございましたらお願いします。

(大西委員)

1人暮らしの方、単独で過ごされる方がこれからどんどん増える状況で、年齢も高齢化している。1人暮らしの方の食事、食育というのも盛り込んでいただけるとありがたい。もう1点、災害のことがネックにあって、毎日の食事は誰でもいつでもどこでも買えたり食事ができますが、もし災害があった場合の食育についても盛り込んでいただけたらどうかと思っている。

(永井部会長)

今の問題として重要な視点かと思います。

(芦田委員)

いわゆる災害栄養です。災害弱者、子供と老人に対してどういうふうに健康維持していくのかっていうのは結構難しいと思う。この災害栄養に関しては、少しかけ離れた部分もあるんですが、宇宙栄養っていうのがあります。今私は日本栄養・食糧学会の会長をやっている関係で、宇宙栄養と災害栄養は実は共通点が多い。極限環境における、栄養や食育は非常に重要だということが言われております。南海トラフの確率が上がりましたよね。そしたら県としてどう対処するのか。その時に弱者をどうい

うふうにして健康を維持するのかっていう点を5次計画の中に入れてほしい。

(永井部会長)

専門的なお立場から、ぜひ災害栄養それから災害弱者の方に向けたことも第5次に取り入れてほしい、というご意見がございました。

(渡部委員)

資料4のスライド6ページ、食料安全保障っていう大きな視点から見たときに、私は漁業者側で来てるんですけども、今コメ騒動があって、非常に価格が上がり、値段がどうかっていう話がありますが、完全に一次産業側の生産者の目線がなくて、この循環の絵はすごく大事なことで、国も食糧自給率を上げていかないといけない。スローガンで大きいイメージはあるけれども、持続可能というのは大きなくくりなので、言葉の意味が伝わるよう具体的に「エシカル消費」という言葉を入れても良いのでは。大人の食育に購買者の責任とあるが、すごく大事なことだと思うので、責任をもって皆が行動できるようなスローガンの要素として「責任」という言葉を入れると、より強く伝わるのではないかと思う。

(永井部会長)

購買者に焦点をあてた、少し強めた書き方も必要ではないかということですね。持続可能というところで、令和のコメ騒動が起こって、魚は今年は秋刀魚が豊漁ですがそれ以外の魚はやっぱり値段が高くて、健康のために食べたくてもなかなか（食べにくいです）。あとは漁業の従事者の方も高齢化されているっていう中で、やはり若い世代が次の担い手になるのかなっていうところもあります。今後、2つの部会が次回1つになっていくというところで、購買者と生産者とどう結びつけていくのか、そして次世代のところまでどう見ていくか。災害も大事なのもちろんですが、食べることが、今後、持続可能なのかといったところで、第5次っていうのは1つの大事なターニングポイントになるのかなと思いながら、お聞きしておりました。

私の方からもう1点なんですけれども、朝食のことが非常にクローズアップされているんですが、朝食さえ食べれば健康になれるというものではなくて…。今日、教育委員会や学校関係の方も来られているんですが、1日の生活をどう考えるか、特に光を発するデバイスの問題であるとか、今、睡眠っていうことも非常に健康づくりの上で重要だとされています。ただ朝食を食べればいいんだっていう伝え方に陥らないような伝え方の工夫であるとか、広げ方が必要かと思いながらお聞きしておりました。

(土井委員)

災害時の食育に重ねてなんですけど、宇宙食というキーワードが出てきた中で、私たち、科学館で宇宙食をレクチャーする取り組みであったりとか、そういったものに参加させてもらったり実施したことがあるんですけども、宇宙っていうテーマはすご

く可能性としても広がりがあるなというふうに感じました。以前8月に、県内の商業施設のイベントをされていたのですが、来られるお客さん、保護者向けに宇宙食のイベントをしたのですが、大前提宇宙が好きって言ってくれるお客さんが多くて、でも結果として、この宇宙食の秘密を学んでいくと、それが災害時の食育っていうところに繋がっていったりとか、栄養的な学びになっていくっていうところで、災害時の食を学ぼうでは来てもらえない方に届けられるキーワードとして宇宙がすごく魅力的なものだったなと過去の取り組みを思い出してコメントしました。

(橋本委員)

BE WELL もそうですし、大学生の食のプロジェクトもそうなんですけれども、メディアの役割っていうところが、非常にこれから重要なかなと思うんです。いろんな団体と連携していくことも非常に重要なんですけれども、やはり正しい情報をしっかり届けていただかないと、メディアはすごく力が強いので、やはりそことどう連携していくのか、というところも、計画に入れていただければと思います。以上です。

(永井部会長)

(情報発信では) いろんな問題も出てきていて、これからは発信者が誰なのかということも含め、正しい情報を届けることを計画に入れるということですね。

(永井部会長)

私たちばかり話していますが、もちろん、双方向でご意見お聞きできたらいいのかなというふうに思っております。

資料4の最後のところに学校給食、学校関係の方であるんですけども、この辺りも読まれまして、思われることがございましたらよろしくお願いいたします。

(井上委員)

本当に私の思っていることがここに合っているかどうか自信がない中の話になるのですが、学校の方も、給食指導って言われているところから、食育指導になったのがもう20年前です。その頃指導計画を作り変えてそれで今もやってるんですけど、やはり目指すものはちょっと違ってきて、食育は生きることなので、子供たちを変える食育っていうのはものすごく大きいものだとも私たちも感じていて、やってきたなというのがあります。そこがずっと続いてきてもう当たり前のようになって、総合的な学習とかそういうところも、各学校根づいている、授業に当たり前のように入っている。栄養教諭さんの配置についても、やはり多くなってきているというところで、学校の中でもやっぱり1人職である栄養教諭さんに委ねる、そういうところもあるかと感じています。

私が教諭していたとき、家庭科を専科でしていたときには、絵手紙などはやはり興味があるので、応募させていただいたりしていました。授業の中でも、魚を捌く、明

石の方から来ていただいたりもしました。そういうチラシをいただくんですが、それを目にとめるかどうかで、経験させてやってる学校とやれない学校と、そういうところがすごくあるなと思います。私たち側も見過ごしてしまうときと、そうでないときもあるなと思いました。大学生の朝食が出ていましたが、小さいときから植物を植えてこんなふうになくなってとか、お魚もスーパーで買ったものではなくて自分でとれたのものを捌いて、自分で料理すると本当においしいんですよ。初めてお魚食べる子とかを見ていると、やはり小学校で担わなければならないところはすごく大きいなと感じています。ところがコロナで全部そういう活動がなくなってしまいまして、なかなか回復していないような、活動がなくても問題はないので。食事関連だけではないのですが、そういうところが、学校の中ではすごくあります。そこをしっかりと捉えて、私たちももう少しいろんな行事も含めて、進んでいかないといけないなと思います。

そして今朝ご飯の20代から29歳の（摂取）がこんなに低いんだなって、大学生ということだったんですが、学校現場では20代～30代前半の教員が多いです。大学卒業後地元に戻ってきても一人暮らしなようで、一人暮らしの先生が多いです。そうすると朝ご飯を食べていません。朝早く来て職員室で何か食べている先生もいますが、しっかり食べてほしいと思うんですが、その先生たちが子供たちにどうやって指導してるのかなとその辺りも懸念しております。前回の8月審議会に出席したときも、そういう時代の先生たちの指導、研修も大事ですよという話を進めさせていただきました。私たち世代は本当に少なくいなくなっていくので、継承が必要だなと思います。

それと学校給食ですが、こうやって目標項目などいろいろしてくださっていることがありがたいと思うんですが、残念ながら経費の問題で、ドレッシングはない、これがついてたらおいしいというものそれがなくなり、私が大好きだったメニューもう無理とか、アレルギーの関係もありますが、経費ですごく限られた食材になっています。やはり給食が楽しみになるところも大きいと思うので、外食とかそういう意味で、この物価高騰は何とかならないのかなと危惧しています。

（永井部会長）

学校抜きでは進んでいかないとだと思いますので、いろいろ教えていただいております。ありがとうございました。

（渡部委員）

今の8ページの学校給食の部分で、兵庫県漁連も平成20年から広報部を作り、それこそ今井上委員が言われた学校への料理教室、いただきますの意味を知って、作ってくれてる人がいて食べるよっていう話をして実際にアジを捌く。たぶん漁連の事業かなと思うんですけど、すごい好評なんです。魚を食べたことない人はそれを考えながら食べる、おいしいということで、広がりがあるんですけど、それを教えていく人の数に限りがあります。もちろん予算もあり、最低限の500円程度負担をもらいなが

ら漁連がやっています。大事だけど広がらないというところですが、継続してやっていきたいと思うのと、学校給食も今まさに井上委員言われたように予算の問題がずっとついてきて、国が目標として広い意味ではいいんですけど、学校給食への食材で地元産を1回は使うとしていて、これ申し訳ないですけど給食費を上げるしかないかなと個人的には思うんで、そういうところにもメッセージで大変さを伝えて欲しいなと。

(永井部会長)

井上委員さんのご発言についてですが、学校の先生の、大人の食育が大事ということも、そうだなと思ってお聞きしたんですが、今、学校っていうところはすごく発信力が上がっているなと感じておりまして…。保護者がほとんど全員スマホをお持ちなので、例えば今日は警報が出たのでお休みですとか、不審者出ましたとか、情報が一瞬で回ってくるというのが、私が住んでる地域にございます。子供から保護者へ、学校から保護者へという（情報の）広がりがすごいなと感じております。

姫路市さんと一緒にやった取り組みなのですが、人を集めない食育ということで。それまでは食育といえば講演会をして、それこそ食に関心がある人だけが、平日集まってということをしてたんですけども、そうではなくってYouTubeに講演時間を短くしたものを3つ上げて、それにアクセスする方法を事務局が一斉に流すとか、そういった方法を今年試験的に行っております。どれだけ視聴回数が出るか私自身もよくわかっていませんが、学校さんの発信力生かした方法なのかなと思って、情報提供だけさせていただきました。

あと、給食の材料費の高騰ですね。教育委員会から来られているんですが、いかがでしょうか。

(体育保健課)

体育保健課の青山と申します。どの市町も物価高騰に伴いまして給食費を上げざるを得なかったり、なかなか上げるのも難しいので値上げする分を間接的に補助するという市町が増えてきています。国もそういう状況はよく認識していて、給食の物価高騰の部分に対して臨時交付金を交付して、それをどういう風に活用するかは市町の方で決められるようになっていきます。県でも特別支援学校で学校給食をしており、臨時交付金を使って補助をしています。各市町もこういった形で間接補助なり直接的な補助をしておりますが、臨時交付金ですので、やはり継続していただけるかという問題もありますので、県としても、国の方に継続していただけるように要望をしています。

(永井部会長)

世界に誇る日本の学校給食ですので、ぜひ、今後の食育推進計画の中にも位置付けていただけたらと思います。よろしくお願いします。

少しだけお時間ございますが、これだけは言っておきたい、伝えておきたいと言ったことございますでしょうか。

(芦田委員)

日本全体で見ると、学校給食をやめるっていう自治体も出てきている。逆に市町単位では給食費をゼロにするっていうのもある。県内でそういう給食費ゼロの取組をしている市町はありますか。

(体育保健課)

県内でも小中学校の給食費の無償化しているところがだんだん増えてきておりまして、国の臨時交付金を使って一時的に無償化しているところと、恒久的に無償化しているところに分かれるんですけども...少しお待ちください。

(芦田委員)

無償化しているところの財源をどこから取っているのかを考えて、県としてこういうのを推進するとすればよいのではないかと。

(体育保健課)

基本的には、学校給食を義務教育の一環としてとらえるのであれば国が支援すべきで、現在国の方でも制度設計を進めてますけれども、令和8年度から小学校を念頭に無償化する方向で今動かれてますのでその動きを注視しているところですが、まだ国の方でも無償化のスキームをどのようにするのかっていうのが確定していないという状況ですので。11月の中旬ぐらいには、スキームが出るのではないかとという情報もいただいていますので、情報があり次第各市町にしっかり情報提供していきたいと思っています。

それで先ほどの無償化の件ですけども、令和7年5月1日現在ですが、県内8市町の方で小中学校いずれも無償化をされています。

(永井部会長)

財源はそれぞれの市町で違うということでしょうか。

(体育保健課)

8市町のうち7市町につきましては、市町の財源、一般財源とかで無償化をされています。1市につきましては国の臨時交付金も利用しながら無償化をされています。

(芦田委員)

今のお答えでいうと、国ありきでその後ろに兵庫県ついていくという形ですよね。兵庫県が前を走ればいいじゃないですか。それこそマスコミに、国に先駆けて県こんなことやりますよって言えるじゃないですか。いつも国ありきでその後ろに県が追隨してるだけで、どうしても国の後ろを従う自治体なんですかね。

(体育保健課)

子育て支援自体が給食費だけではありませんので、教育委員会だけで議論できるものではないため、兵庫県としてどういったことが一番効果的なのかということを他部局とも連携しながら検討していきたいと思います。

(永井部会長)

スローガンのフレーズですが、最初に大西委員からご発言ありました災害ですとか、単身世帯がどんどん増えていくということ、あるいは物価高騰でありますとか、給食を守るですとか、大変貴重なご意見をいただいたと思いますので、ぜひそのあたりを勘案していただきながら食育推進計画第 5 次の検討を進めていただきますとありがたく存じます。

また、今回の内容を踏まえての、第 2 回食の安全安心と食育審議会でのご提案となるかと思いますので、そちらの方もよろしく願いいたします。

それでは続きまして、令和 7 年度食育絵手紙コンクールの審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

審査について資料 6 により説明

【審査】

(事務局)

それぞれ選定していただいたものを確認、発表させていただきます。

【審査結果発表】

(事務局)

これをもちまして食の安全安心と食育審議会 「食育推進部会」を終了させていただきます。皆様ありがとうございました。